

IV-29

街路景観における雪の効果と魅力について

秋田大学 学生員 ○佐藤 タ子
秋田大学 正 員 木村 一裕
秋田大学 フェロー 清水浩志郎

1.はじめに

都市と地域の景観整備については様々な研究がなされているが、これまで積雪期の景観に関する研究はあまり行われていない。冬の長い雪国では四季の景観変化のひとつとしても、また快適な生活を送るためにも雪を魅力的な景観要素とした景観整備が必要と考えられる。そこで本研究では、雪を考慮した景観整備を考えるためのひとつの試みとして、我々が接する機会の多い街路景観に着目し、雪が景観に与える影響について、また「雪景色」の持つ魅力について考察する。

2.研究の概要

(1)研究の流れ

本研究では、はじめに、「雪景色」にイメージすることばの抽出を行った。ついで街路の積雪時と無積雪時を対象景観とし、それぞれの評価調査を行った。そして各景観の嗜好性、景観要素の注目度の検討、さらに各景観のイメージ因子の抽出を試みた。

(2)調査概要

調査概要は表-1 に示す。調査に用いた対象景観は、4 種類の基本景観を元に、構成要素の色が違うものや積雪量が違うものをコンピュータ画像処理により作成した 15 景観であり、写真 1 に示している。また、景観操作項目を表-2 に示す。

表-1 調査概要

調 査 内 容	被験者数
1.雪景色に対するイメージ調査 あなたが持っている雪景色のイメージを教えてくださいと教示し、イメージを抽出	58 名
2.対象景観評価調査 1) 景観に対する評価(表-2 に示す形容詞 7 対の 5 段階評価) 2) 景観要素に対する評価 ①目立つ要素はなにか②好ましいか③景観になじんでいるか	38 名

3.雪景色のイメージについて

本研究で取り上げた街路景観に限らず、雪景色に対するイメージを把握するため、まずはじめに調査 1 において、雪景色ということばから連想される事柄を自由に回答してもらい表-4 のように分類した。

情景での表現では、躍動的ではなく、静寂の表現が目立つ。また、子供や別れなど、独特の表現も見られた。同じ語句は多くはあげられず、人々が雪景色に対する様々なイメージを持っているようである。

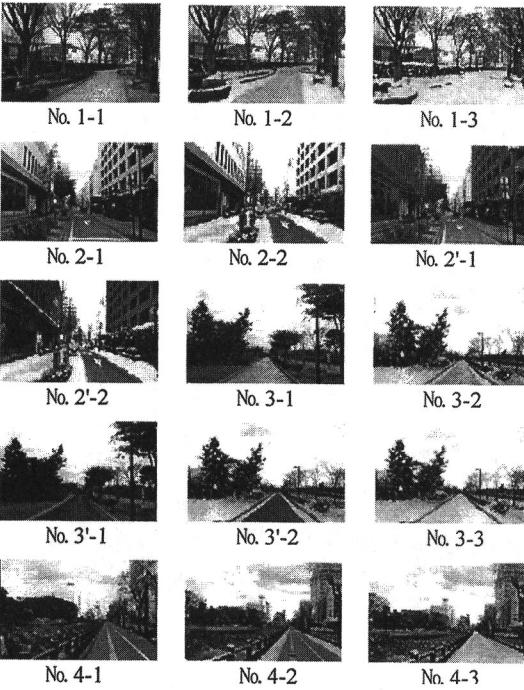


写真 1

表-2 調査に用いた形容詞対

No.	形 容 詞 対	No.	形 容 詞 対
①	好き — 嫌い	⑤	現実的な — 幻想的な
②	調和している — 調和していない	⑥	すっきりとした — 乱雑な
③	冷たい — あたたかい	⑦	新鮮な — ありふれた
④	かたい — やわらかい		

表-3 景観操作項目

景観No.	操作内容	景観No.	操作内容
No.1	No.1-1 無積雪時	No.3	No.3-1 無積雪時
	No.1-2 路面に雪なし		No.3-2 路面に雪なし
	No.1-3 路面に雪あり		No.3'-1 路面の色が異なる
No.2	No.2-1 無積雪時	No.4	No.3'-2 路面に雪なし
	No.2-2 路面に雪なし		No.3-3 路面に雪あり
	No.2'-1 建物の色が異なる		No.4-1 無積雪時
	No.2'-2 路面に雪なし		No.4-2 路面に雪なし
			No.4-3 路面に雪あり

表-4 雪景色のイメージ分類

分類	調査により抽出された表現
形容詞	白い、寒い、冷たい、暗い、静か、美しい、明るい
自然現象	吹雪、吹き溜まり、霧柱、つらら
道路状況	除雪後の雪の壁、路面の凍結、排気ガスで汚れた道路、雪が解けて汚くなった道路
自然風景	雪山、白い田、木の枝に積もった雪、狐の足跡、野原に積もった雪
地名	太平山、鳥海山、岩木山、猪苗代湖、富士山、安比、田沢湖、雄物川河川敷、北海道、白川郷、蔵王の雪化粧、兼六園、千秋公園
イベント・レジャー	スキー、雪合戦、そり、わかさぎ釣り、雪祭り、雪灯籠、ゆきだるま
情景	白い山にキタキツネ、広い田園に雪が積もっている、雪囲いの家が広いところにぼつんとある。家の庭の腰までうもるほど積もった雪。風がない。しんと降り積もる。かやぶき屋根。牡丹雪が降っている。まだ誰も踏み入っていない雪の中に狐の足跡。
その他	温泉、ミカン、こたつ、除雪車、ドラマ「北の国から」、列車の窓の外、がっぱ、子供、わかれ

4. 景観評価について

写真1の景観について、その嗜好性を分析した。図-1には嗜好性の結果を示している。その結果、無積雪時と積雪時とを比較すると、すべての場合において、無積雪時の方が高い評価となった。

景観操作を行ったNo.2、No.3についてみると、No.2-2とNo.2'-2では、No.2'-2の評価が高く、No.3-1とNo.3'-1の評価にも違いが見られた。したがって、年間を通じた評価としては、No.2'-1とNo.2'-2、No.3-1とNo.3-2の組み合わせが総合評価の高い景観であるといえる。

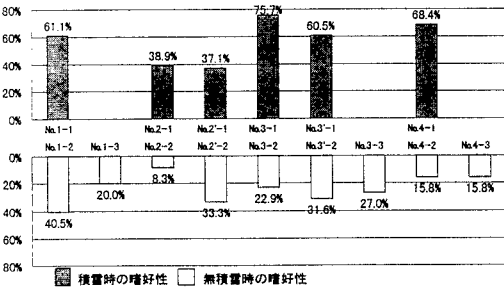


図-1 対象景観の嗜好性

各景観のイメージを把握するために因子分析を行ったところ、積雪時にはあたたかさややわらかさ、新鮮さなどの形容詞が抽出された。

5. 景観構成要素の評価について

対象景観に対して、各景観要素がどのように注目され、さらにどのように評価されているか、という観点から分析した。調査2における目立つ要素につ

いて、1位にあげられた要素を3点、3位を1点として、点数化した。図-2には、No.2-2とNo.2'-2での要素の指摘点数と嗜好性を示している。

No.2'-2は建物の色を操作した積雪景観であるが、無積雪景観のNo.2-2と比べ、建物がより注目され、またその評価は高くなっている。イメージ分析においてこの景観は「すっきりとした」イメージを持たれており、建物が景観全体を引き締めていることがうかがえる。同様の分析をNo.3'-2(路面の色を操作した景観)について行ったところ、No.2と同様に路面が注目されているが、No.3-2と比較すると路面の嗜好性や他の要素への指摘、その嗜好性が低かった。イメージ分析においては「乱雑な」イメージを持たれており、路面が目立つことで、他の要素への関心が薄れ、景観全体の評価を低下させたことがうかがえる。

また、各景観を好きと答えた人と嫌いと答えた人の各景観要素の注目度と評価を比較したところ、No.2'-2では建物の指摘数に変化は見られないが、嗜好性は景観を好きと答えた人の方が高い。一方、路面の評価の低いNo.3'-2では、景観を好きと答えた人よりも嫌いと答えた人の路面への注目度が高い。

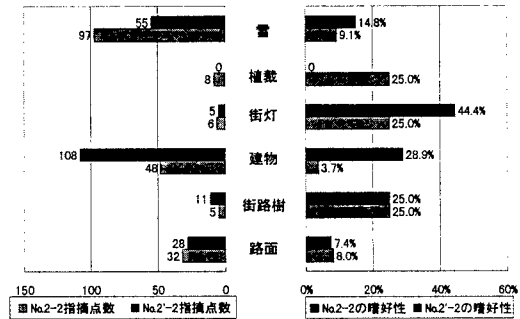


図-2 No.2-2、No.2'-2の要素の指摘点数と嗜好性

6. まとめ

本研究では、雪景色に対するイメージの抽出と、積雪時、無積雪時の景観についての評価を行った。その結果、雪景色のイメージは静寂の情景で多く表され、個人独特の表現も見られた。また、雪は景観に暖かいイメージや幻想的なイメージを与える傾向があった。景観の評価にはそれぞれの要素への注目度と好ましさが影響していることが明らかとなった。今後の展開として、被験者の幅を広げ、対象を様々な空間とした研究を進めたいと考えている。